

2026年第2週の報告です。

全国のインフルエンザの定点当り報告数は今週も警報レベルが継続しています。京都府の報告数は先週に比べ少し増加しましたが注意報レベルです。

水痘が南丹と丹後では定点当り 2.00 件報告され、新たに警報レベルとなりました。ほかに山城南・中丹西・中丹東でも注意報レベルです。

全数把握対象疾患は、**結核と侵襲性肺炎球菌感染症**がそれぞれ 4 件、**レジオネラ症・百日咳**が 3 件、**梅毒**が 2 件、**腸管出血性大腸菌感染症・クロイツフェルト・ヤコブ病・破傷風**と**バンコマイシン耐性腸球菌感染症**がそれぞれ 1 件報告されました。

さて、昨年 11 月頃から、感染性胃腸炎の報告件数が徐々に増加してきており、冬季の流行シーズン到来の兆しが見えます。

感染性胃腸炎は、主にウイルスや細菌の感染が原因で嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす様々な疾患の総称であり、いわゆる「食中毒」の多くもこの中に含まれます。一般に夏季は細菌（大腸菌、サルモネラ菌等）、冬季はウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス等）の感染が多く見られます。

予防には、食事の前やトイレの後などの流水・石鹼による手洗い、加えて食品の十分な加熱や調理器具の衛生管理などが重要です。特に食品の加熱については、一般的に「中心温度 75°C で 1 分以上」が目安とされますが、ノロウイルス胃腸炎の予防では、「中心温度 85～90°C で 90 秒以上」の加熱を行うことが推奨されています。またノロウイルス胃腸炎が家庭内で出た場合は、感染者の吐物や糞便の処理を行うにあたり、手袋やマスクを着用し、消毒には次亜塩素酸ナトリウム（家庭用漂白剤）を使用してください（ノロウイルスはアルコール消毒に抵抗性があるためです）。なお、乳幼児を中心に流行するロタウイルスに対しては、予防のためのワクチンがあり、2020 年 10 月から定期接種が始まっています。

治療は、細菌性でもウイルス性でも一部の感染症や重症例を除き、基本的には対症療法が行われます。水分補給をこまめに行い、脱水を防ぎましょう。乳幼児や高齢者で、飲んでも吐いてしまうなどの状態が続く場合は、脱水症が懸念されるため、早めに医療機関を受診してください。

○より詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。

- ・[感染性胃腸炎（特にノロウイルス） | 厚生労働省](#)
- ・[ロタウイルスワクチン | 厚生労働省](#)